

SUM

Keywords

ホームレス 選択
wicket safetynet molecule

1. Introduction

時代と共に変化し続けている東京。新しい建築物が増え続ける一方、その影にはホームレスが必ず存在する。ホームレスは社会から隠れ、社会はホームレスに嫌悪感を抱いている。社会から取り残されているホームレスをこのままにしておいて良いのだろうか。

2. Background

2.1 Current status of homeless

東京都のホームレスの数は2005年から減少傾向にある。これは2005年の後半から、東京都が路上生活者対策事業を開始したからだと思われる。

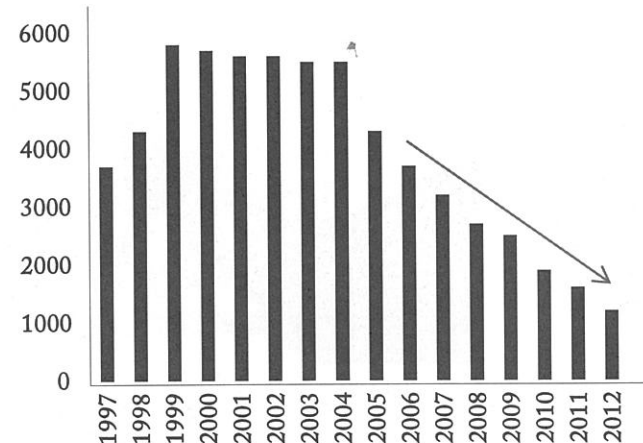


Figure 1 Number of homeless in Tokyo

しかし、減少したと言っても東京23区には少なくとも1000人以上のホームレスがおり、近年では漫画喫茶やネットカフェに住むホームレスが増加しているため、ホームレスの数を認識するのも難しくなっている。

2.2 Governmental efforts

ホームレス人口の多い東京都では、ホームレスへの自立支援を行っている。意欲・心身の状態とも就労に問題がないと認められた人に対しては、職業・住宅等についての相談、自立支援住宅での生活訓練などの自立支援をしている。しかしこの援助を受け、就労自活してもその後失業し路上生活に戻る人や、援助期間中に就労自活出来ない人も少なくない。

東京都内の一時保護施設は周囲に景観や治安に対して不快感を抱かないようにするために常設することが難し

く、開設期間が5年間となっており、その後地域ごとに場所が変わっていく。

2.3 Characteristics of homeless

現在では、ホームレスのタイプは2つに分けられる。1つ目は、仕事・お金がないがためにホームレスになるタイプである。そして2つ目のタイプとは、ただ仕事がないからという理由でホームレスになるのではなく、ホームレスに慣れてしまったりホームレスに不便を感じなくなり、ホームレスの生活を続けているタイプである。このタイプのホームレスは社会復帰をさせたくてもそれを望んでおらず、最終的に受け入れられる社会がない。

3. Concept

社会から隠れ、取り残されているホームレスに新たな可能性を見つけ、社会に受け入れられるためのプログラムと空間を形成する。

4. Site



Picture 1 Site (3800m²)

敷地は、表参道ヒルズ前（東京都渋谷区神宮前5丁目8）とする。表参道は、明治神宮の正面側参道として1920年に整備された道路である。かつては地元住民と明治神宮への参拝客が通行する程度の通りだったが、今ではけやき並木のショッピングストリートとして、多くの若者が集まる通りである。

しかし、渋谷区は東京23区でのホームレス人口が2位であり、表参道沿いにある教会（東京ユニオンチャーチ）では、月に一度ホームレスのための炊き出しが行わ



K10087 東 佳苗

れている。また近くには代々木公園があり都会の自然を楽しむことが出来るが、木の陰にはホームレスの住むビニールハウスが多く存在し、近寄りたさを感じる。ホームレスとは無縁に感じる表参道にも、ホームレスが近くに存在していることを象徴している敷地である。

5. Vision

5.1 Safetynet

現代の人々は、やりたいことに挑戦しようとしても失敗したときの逃げ場がない。例えば起業したくても、失敗したときのことを考えると行動に移せない傾向にある。しかし、そのときsafetynetとして機能するシステムがあれば、人々は再び挑戦することが可能になる。

このようにこの建築が我々の社会のsafetynetになることが社会の活性化に繋がる。この建築が我々の社会に貢献し、ホームレスが社会に認められることを目指す。

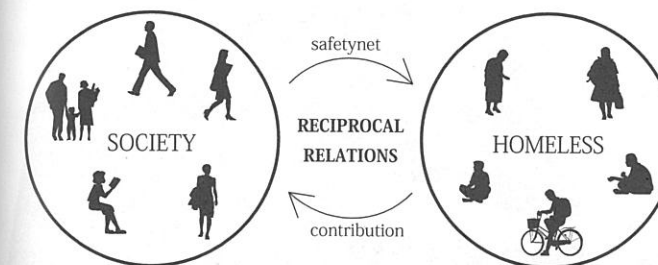


Figure 2 Reciprocal relations

5.2 Intention of homeless

この建築では、ホームレスの意思を尊重する。ホームレスのままでいたい人には、生きていくために必要な機能を提供し、社会復帰したい人には社会復帰を目指すために必要な機能を提供する。ここでは、ホームレスを無理に社会復帰させるのではなく、ホームレスのままでいるか、社会復帰するかは自分で選択出来る。そのためには、ホームレスという生き方に抵抗感がなくななければならない。

6. Program

今ある我々の社会をsocietyとし、ホームレスがsocietyに受け入れられるためのプログラムを設計していく。

6.1 Molecule (農場・シャワー・トイレなど)

societyと同じ都市空間を共存する「ホームレスの社会」を設計する。moleculeは社会と対等なものとし、ホームレスだけで自立可能な社会を目指す。

ホームレスがsocietyに頼らず生活していくために、食については農場、身なりについては雨水のシャワーを利用するなど、そこで1つの循環させた社会を作る。

6.2 Wicket (職業案内所)

societyとmoleculeの窓口として、ホームレスによるホームレスのための職業案内所を設計する。wicketはホームレスが接客し、ホームレスや無職になった人が利用する。現在職に就けているホームレスに仕事を紹介して

もらうことによって、ホームレスが就きやすい仕事を集めることが可能になる。

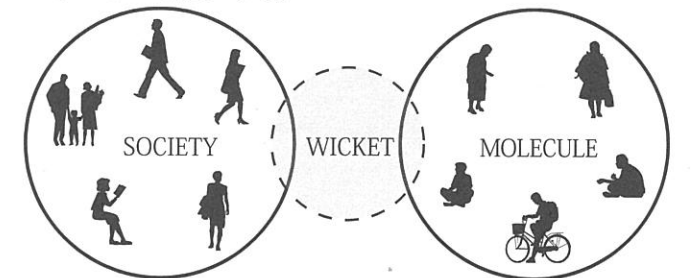


Figure 3 Society = Wicket = Molecule

6.3 Prep (革製品の店舗、加工工場)

moleculeの循環させた社会を利用し、表参道の人々が利用する店舗を設計する。prepで販売するものはで生産されたものを利用し、ホームレスがmoleculeで生産、加工、販売を行う。ホームレスと表参道の人々の関わりが生まれる。

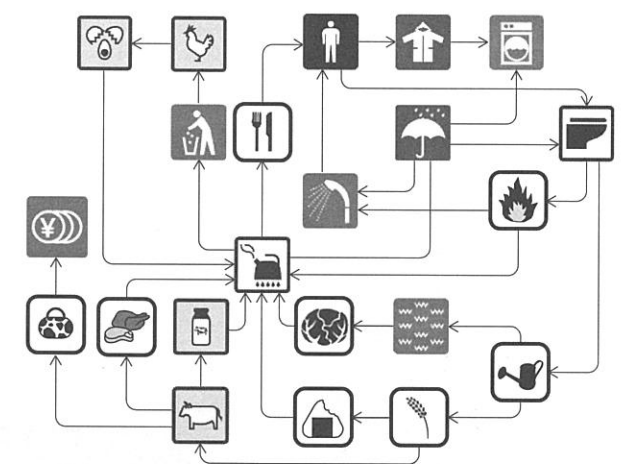


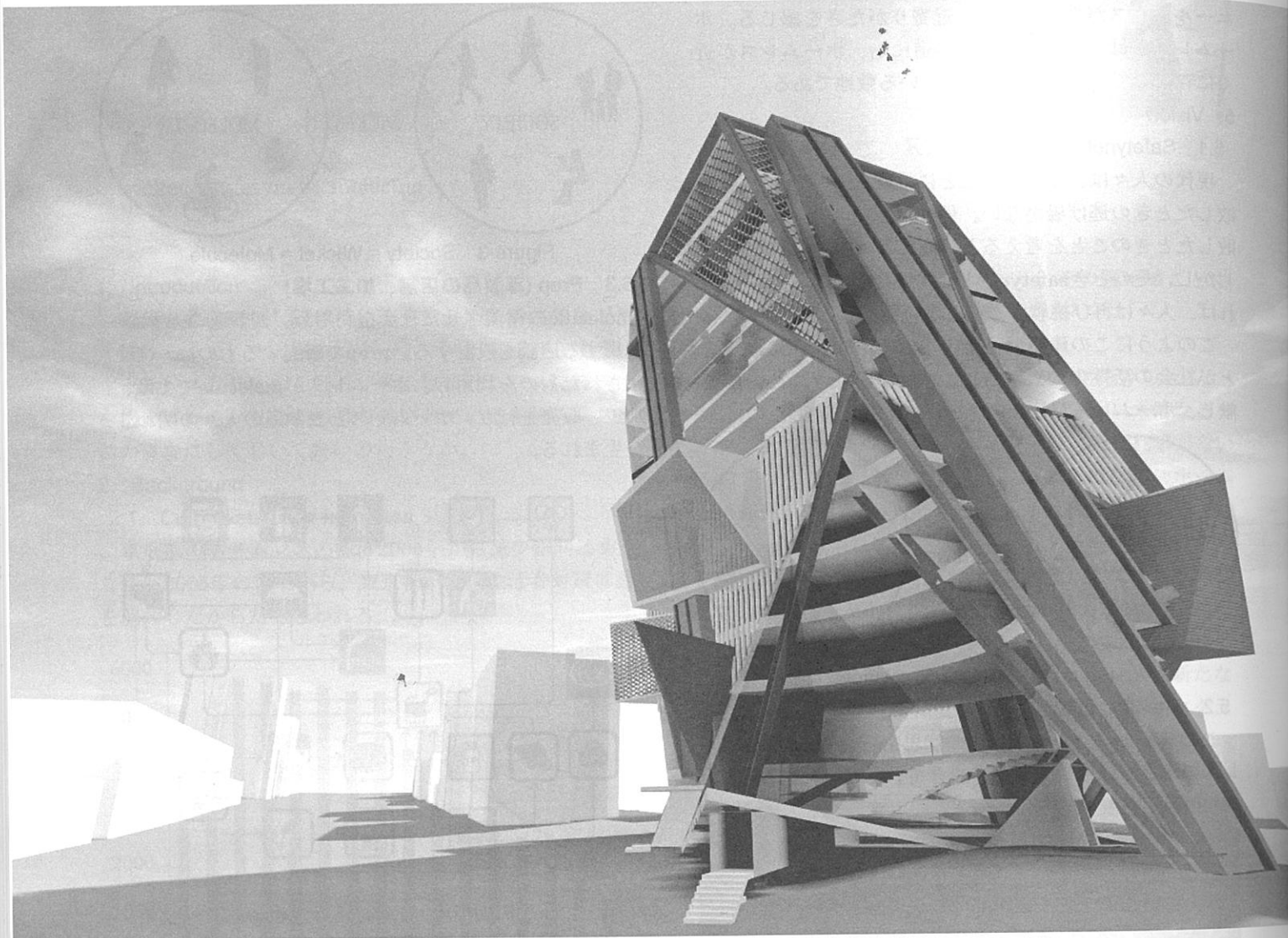
Figure 4 Cycle of molecule

7. End

私達とホームレスの人々は同じ都市に生活しながら、社会によってその存在は片隅に隠され、不当に差別されている。この建築が彼らの社会との互恵関係を生み、草食化する日本人を変えることができるならば、社会はかけがえのない一部として彼らの価値を認めることができるかもしれない。

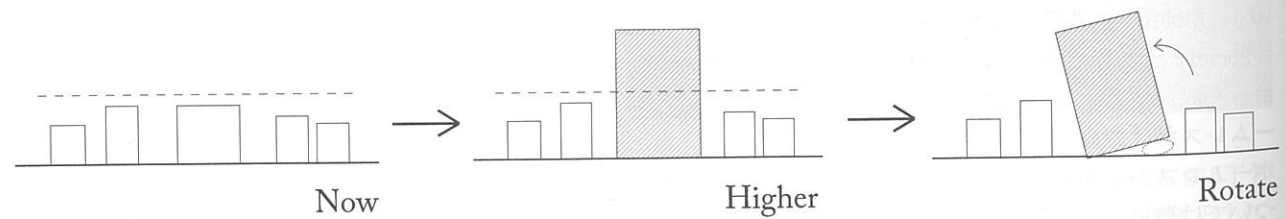
参考文献

- 1) 「東京都公式HP」 <http://www.metro.tokyo.jp/index.html>
- 2) 「厚生労働省HP」 <http://www.mhlw.go.jp/>
- 3) 山本理顕：「地域社会圏主義」2012/01/10
- 4) 二川幸夫：「OMA RECENT PROJECT」2012/06/25

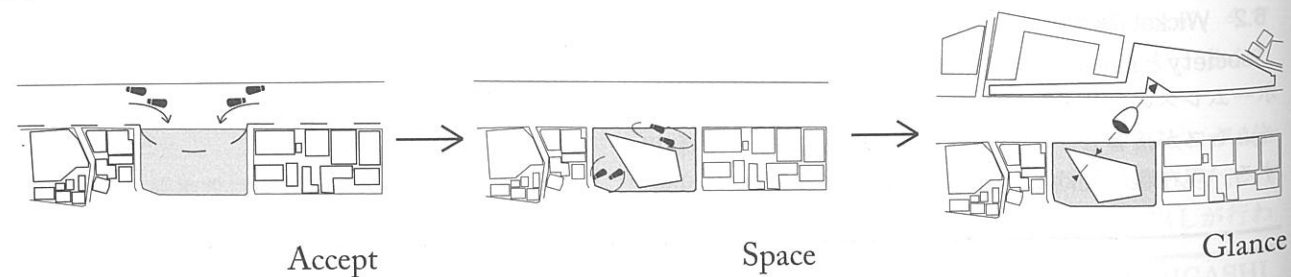


Diagram

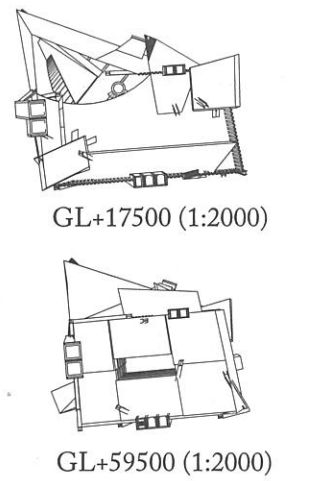
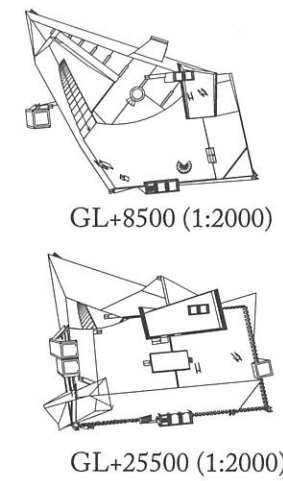
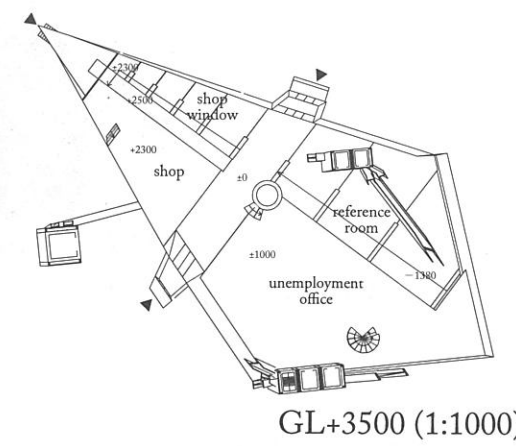
1.Vertical



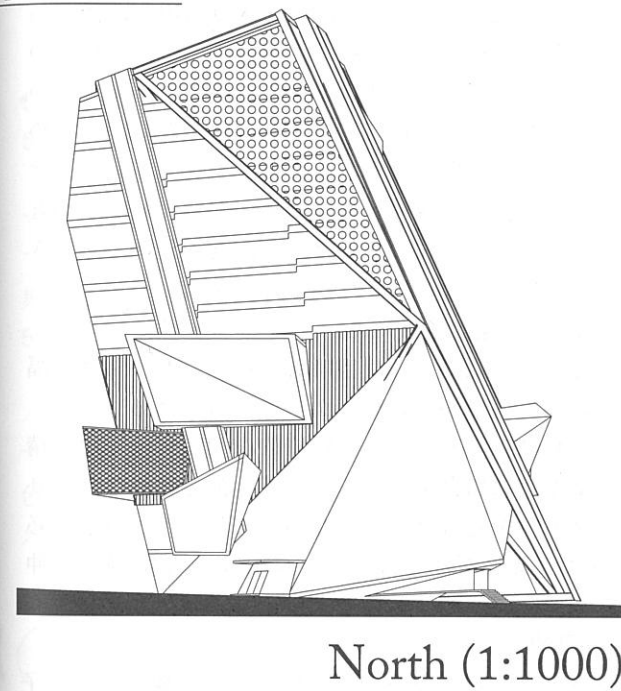
2.Horizontal



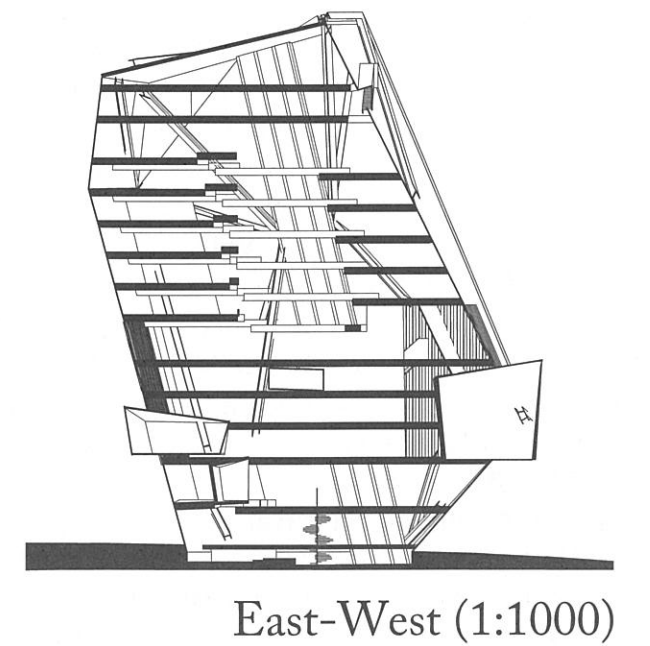
Plans



Elevation



Section



Site plan

